



“防災本”をより多くの人に 読んでいただくために 必要な3つのこと

(株)マガジンハウス Hanako編集部

中島千恵

Hanako

これまで防災特集／防災本／防災イベントを手掛ける中で 寄せられたリアルボイス

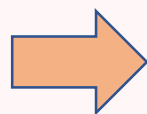
Q. あなたは、いざというときの「備え」をしていますか？

引っ越した時に
防災袋を用意し
ましたが、5、
6年見直してい
ません。

準備しなきゃとは
思うけれど、
毎日の忙しさもあり、
ついついあとまわしに。

地震や台風などが
起きるたびに情報
に踊らされるが、
結局何が大切かわ
かっていないかも。

ひとり暮らしなので
必要ないような気が
していて…。自分一
人ならどうにかなり
そう。



**大切なことだとは思いつつ、何から始めていいのか
いまいちよくわかっていない人が多数。**

多くの都民に届く／役に立つ本にするために

①“普段使い慣れているものしか、非常時には使えない” ＝まずは「身の回りのものを防災に生かす」発想を伝える

非常時はパニック状態。そんな時に、“初めての道具”、“初めての知識”は役立ちづらい。
毎日使うもの、日頃知っていることを“生かす”ことがとても重要。

②“やってみる”ことを誘導する ＝自分ごと化してもらうための仕掛けを作る

例えば、クイズ形式のページを作ってもいい。非常時の連絡先を書き込む欄を作ってもいい。
自分のこととして“やってみる”、“カスタマイズする”、そして“繰り返し読む”ことの大切さを伝える。

③全ジャンルのことを一つの本に入れる ＝さまざまな立場の人のことを“知る”機会にする

女性のための防災本を作った時に意外だった反応は、男性からのものだった。
自分とは違う立場の人のことを理解するのは難しいこと。でも、知識として知ることはできる。
より多くの人々が助かる社会にするための“知る”機会を提供する。

